名古屋市教育委員会定例会

平成 30 年 7 月 20 日
午前 10 時 00 分
教育館第 3・4 研修室

議 事

- 日程 1 請願第 1 号 請願審査について
日程 2 平成 31 年度使用教科用図書採択及び採択審議について
日程 3 第 11 号議案 名古屋市教育委員会表彰について
日程 4 第 12 号議案 名古屋市博物館協議会委員の委嘱について
日程 5 第 13 号議案 名古屋市科学館協議会委員の委嘱について

出席者

杉 崎 正 美 教育長
小 栗 成 男 委 員
野 田 敦 敬 委 員
梶 田 知 委 員
小 嶋 雅 代 委 員

教育次長始め、事務局員 36 名 ※傍聴者 40 名

(杉崎教育長)

ただ今から教育委員会定例会を開催いたします。

本日は多数の傍聴申し込みが見込まれたため、傍聴人の定員を教育委員会傍聴規則に定める 10 人から 40 人に拡大して受け入れておりますのでご理解のほどお願いいたします。

では、議事運営についてお諮りいたします。

議事日程第 3「名古屋市教育委員会表彰について」から日程第 5「名古屋市科学館協議会委員の委嘱について」につきましては、名古屋市教育委員会会議規則第 6 条の規定に基づき、非公開にて審議としたいと思います。また、会議録につきましても日程第 3 から第 5 については非公開としたいと思います。いかがでしょうか。

(各委員)

異議なし

(杉崎教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

次に、傍聴の方も含め、ここにおられるみなさまにお願いいたします。日程第2の平成31年度使用教科用図書採択に関しましては、県の指導を受け、採択結果は8月31日まで非公開としております。また、採択などに関わる会議録、資料等につきましても、同様の取り扱いとなりますので、その旨ご理解の上、本日知り得た内容につきましては、ご配慮いただきますよう、お願いいたします。

ではこれより、日程第1 請願第1号「請願審査について」です。

審議に先立ちまして、請願者から口頭陳述を行いたい旨の申し出がありましたので、会議の運営上5分以内で陳述を許可したいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(杉崎教育長)

それでは、請願第1号の陳情人の方、入室を許可します。

口頭陳述におきましては、会議の運営上、5分以内で行うようお願いいたします。それでは陳述をはじめてください。

【陳情人より口頭陳情が行われた】

(杉崎教育長)

5分を超えましたので、以上で口頭陳情を終了します。陳情人は退出してください。

それでは審査に入ります。まずは事務局からの説明をお願いいたします。

(佐野総務部長)

日程第1「請願審査」について、まず請願第1号についてご説明させていただきます。請願項目については次の3点でございます。

第1項「日本国憲法の基本原理に合致する中学校道徳科教科書を採択すること」、及び第2項「日本教科書(株)の道徳科教科書は問題点が多いので絶対に採択しないこと」を求めるものでございます。

平成31年度使用中学校用教科書「特別な教科 道徳」につきましては、教科書目録に掲載されているものが教育委員会で採択されますが、いずれの教科書も国の検定を受けたものになっております。

第3項「採択理由や採択資料は、すみやかに全面公開すること」を求めるものでございます。

教科書の採択に関しましては、県の指導を受け採択結果、採択に関わる会議録、資料等につきまして、採択未実施の地区における影響を考慮し、採択期間である8月31日までは非公開としております。

なお、9月1日以降、名古屋市公式ウェブサイトにて採択教科書、採択審議過程及び教育委員会会議の提出資料と会議録を公開するほか、市民情報センターへの資料の配架を予定しております。

説明は以上でございます。よろしくご審議いただきますようお願いいたします。

(杉崎教育長)

説明が終わりましたので、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(杉崎教育長)

特にご意見もないようです。

それでは本請願の取扱いについてであります。第1項及び第2項につきましては、まさにこれから我々で議論をして採択する教科書を決定していくという状況であることから、また、第3項につきましては、冒頭にも申し上げ、先ほどの事務局からの説明にもありましたとおり、県の指導を受け教科書採択に関する採択結果、採択に関わる会議録、資料等について8月31日まで非公開の取り扱いとし、9月1日以降すみやかに公開していく方向であることから、いずれも「ご意見としてうけたまわる」ということでいかがでしょうか。

(各委員)

異議なし

(杉崎教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

次に、日程第2「平成31年度使用教科用図書採択及び採択審議について」を議題いたします。

本日は、前回にお伝えしました通り、小学校用「特別の教科 道徳」、中学校用、特別支援学校・学級用、高等学校用、及び「特別の教科 道徳」以外の小学校用と中学校用「特別の教科 道徳」の教科用図書について順に採択を行います。

では、はじめに、小学校用教科用図書のうち、「特別の教科 道徳」の採択を行いますので、事務局の説明を求めます。

(藤本指導室長)

小学校用教科用図書「特別の教科 道徳」につきまして説明させていただきます。まず、お手元のピンク色のファイル「平成 31 年度使用教科用図書一覧表（案）」の表紙裏をご覧ください。「平成 31 年度使用教科用図書採択基本方針」の 1 の (1) にありますように、小学校用教科用図書「特別の教科 道徳は、平成 30 年度と同一のものを採択する。」となっております。

続きまして、1 ページをご覧ください。「平成 31 年度使用小学校用教科用図書 特別の教科 道徳（案）」でございます。なお、文部科学省より送付された「平成 31 年度使用小学校用教科書目録」には、現在、名古屋市が使用している教科書が掲載されており、平成 31 年度の供給に支障はないことを申し添えます。よろしくご審議お願いいたします。

（杉崎教育長）

説明が終わりましたので、小学校教科用図書「特別の教科 道徳」についてご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

（梶田委員）

まさに去年、この小学校道徳の教科書を採択したわけですが、その後、先生方とかそういった方からこの教科書に対する特別なご意見だとか問題点の指摘というのはあったのでしょうか。

（杉崎教育長）

まだ今年度からですけども、なにか学校現場から意見があれば。

（藤本指導室長）

まだ使用してから 4・5・6 の 3 か月でございますが、教員自身は新しく教科化したことで、かなり試行錯誤のなかで指導しているところでございますが、教科書自体の使用について特に問題点というのは今のところ聞いておりません。

（小栗委員）

実際私も見学をさせていただきましたと、とても、ある意味先生がどういう風に方向付けをしていけばいいのかなということ、とても限られた時間の中でよく考えてやってらっしゃったというような印象を持ちました。

3 か月たって今日、中学の方を見て行かなきゃいけないんですけども、まだ 3 か月といえどもですね、なにか我々が今後参考にしていかなければならないことがあれば教えていただきたいです。

（杉崎教育長）

今日の採択に参考になるようなことが、3 か月ではありますが、ご意見とか考えがありましたら。

(藤本指導室長)

基本的にはこの道徳につきましては、「考え、議論する道徳」ということを念頭に置いて進めていくべきだと考えておりますので、その中で考えますとやはり子どもたちが主体的に考え議論するという部分で採択の意見交換等を進めていただければと思いますのでよろしく願いいたします。

(野田委員)

私も同じように、小栗委員とは別の学校を視察させていただいたんですけども、教科書を使ってですね、本当に子どもの意見を大事にしながら、少し指導案と違って子ども意見の意見を大事にしながら進めて見える、そんな工夫が見られましたので、本市のそういった事例は参考になるかなと思います。以上です。

(杉崎教育長)

他にご意見もないようですので、平成 31 年度使用小学校用教科用図書「特別の教科 道徳」については、4 月定例会で決定した採択基本方針のとおり、今年度使用している発行者のものを引き続き採択するというところでよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(杉崎教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

次に、「特別の教科 道徳」以外の中学校用教科用図書の採択を行いますので、事務局の説明を求めます。

(藤本指導室長)

「特別の教科 道徳」以外の中学校用教科用図書につきまして説明させていただきます。まず、ピンク色のファイルの表紙裏をご覧ください。「平成 31 年度使用教科用図書採択基本方針」の 1 の (2) にありますように、「中学校用教科用図書は、平成 30 年度と同一のものを採択する。」となっております。続きまして、2 ページをご覧ください。「平成 31 年度使用中学校用教科用図書一覧表 (案)」でございます。なお、文部科学省より送付された「平成 31 年度使用中学校用教科書目録」には、現在、名古屋市が使用している全ての物が掲載されており、平成 31 年度の供給に支障はないことを申し添えます。よろしくご審議お願い

いたします。

(杉崎教育長)

説明が終わりましたので、「特別の教科 道徳」以外の中学校用教科用図書についてご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(杉崎教育長)

特にご意見もないようですので、「特別の教科 道徳」以外の平成 31 年度使用中学校用教科用図書については、4 月定例会で決定した採択基本方針のとおり、今年度使用している発行者のものを引き続き採択するというところでよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(杉崎教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

次に、特別支援学校及び小学校・中学校の特別支援学級用の教科用図書の採択を行いますので事務局の説明を求めます。

(藤本指導室長)

特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級用教科用図書について、説明いたします。

まずピンク色のファイルの表紙裏をご覧ください。「平成 31 年度使用教科用図書採択基本方針」の 1 の (3) にありますように、「特別支援学校用教科用図書は、特別支援学校知的障害者用教科用図書を採択する」となっております。また、1 の (4) にありますように、「特別支援学級及び特別支援学校において使用する学校教育法附則第 9 条の規定による教科用図書は、児童・生徒の特性に応じて採択する。ただし、小学校用及び中学校用教科用図書と同一種目のものを使用する場合は、採択したものの中から選ぶものとする」とあります。これは、本日、これまでのところで採択いただいた 1・2 ページの教科用図書と、この後採択していただく特別の教科 道徳以外の小学校用教科用図書のことでございます。続きまして、3 ページをご覧ください。「平成 31 年度使用特別支援学校用教科用図書一覧表 (案)」でございます。

なお、特別支援学校・特別支援学級設置校では、校長を長とする「教科用図書調査研究協議会」を設置し、児童・生徒の特性に応じた適切な教科用図書の調査研究をしてまいりました。その結果は、「平成 31 年度使用教科用図書調査研究報告書」として提出され、教育長の机上に、その原本の綴りを置かせていただきました。

各校より出された報告書を集約したものが、次のページの参考資料でございます。特別

支援学校及び小・中学校の特別支援学級用として、児童生徒の実態に合わせて採択希望が出されたものでございます。よろしくご審議お願いいたします。

(杉崎教育長)

説明が終わりましたので、特別支援学校・特別支援学級用教科用図書についてご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(杉崎教育長)

特にご意見もないようです。平成 31 年度使用特別支援学校・特別支援学級用教科用図書については、各学校から採択希望が資料として出されております。そのとおり採択するというところでよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(杉崎教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

次に、高等学校用教科用図書の採択を行いますので、事務局の説明を求めます。

(伊藤高等学校・幼稚園教育担当主幹)

それでは、高等学校用教科用図書について説明させていただきます。

まずピンク色のファイルの表紙裏をご覧ください。「平成 31 年度使用教科用図書採択基本方針」の 2 の (1) にありますように、「平成 31 年度に名古屋市立高等学校において使用する教科用図書は、課程及び学科の特性並びに生徒の実態に即し、見本本の調査研究を十分に行い、公正かつ厳正に適切なものを採択すること」となっております。

今回文部科学省に登録されている教科書の数ですが、教科書目録の「はしがき」の下段の表にございますように、全教科合わせて 795 種 831 点となっております。今回、市立高校 14 校からは、総数で 348 種 366 点の教科用図書の採択希望が挙げられておりますので、ご検討をよろしくお願いいたします。

採択の流れにつきましては、4 月の教育委員会で既にお示ししておりますので、詳細説明につきましては割愛させていただきます。

なお、公平・公正な教科書採択を行うため、教科書の執筆・編集に携わった教員は、各学校における研究協議会に関与しないこととしております。教科用図書採択に関わる資料として、3 種類のものをご用意しました。

まず、青ファイルをご覧ください。表紙を開けていただきますと、資料 1-1 がございます。こちらが、5 月に各校の教科代表を招集して実施いたしました教科書研究会の報告書。

次に資料 1-2 がございます。こちらが、各学校におきまして教科ごとに行われました「採択希望教科用図書研究報告書」でございます。最後に資料 1-3 として、各学校・学年ごとに採択希望教科書を一覧表にいたしました「採択希望教科用図書一覧表」でございます。

14 校分すべての資料が青ファイルにございますが、大変分量が多いですので、その抜粋資料をお手元に置かせていただきました。そちらが説明資料となっております。その抜粋資料を基に、担当よりご説明申し上げます。

(伊藤指導主事)

「教育委員会説明資料」とございます抜粋資料で説明させていただきたいと思います。

まずはじめに、資料 1-1 に関わって、説明資料の 1 ページから 3 ページをご覧ください。ここでは色々な科目より『国語総合』を抜粋して記載しております。

この研究報告書は、教科研究会において新しい教科書の特色をまとめたものです。各出版社から文部科学省に提出された教科用図書の編修趣意書を基に、各教科書の特徴や各高等学校の生徒の実態など、昨年度まで各校で研究された成果を加えた資料となっております。

ちなみに、1 ページ 3 の東京書籍の教科書は現代文編と古典編の分冊となっており、1 種類 2 点という扱いとなっております。

次に、資料 1-2 に関わって、説明資料の 4 ページから 7 ページをご覧ください。抜粋資料として、14 校のうち、菊里・名古屋商業・工業・中央夜間定時制の 4 校分の国語を掲載してございます。こちらは、各学校の研究報告書を教科別にまとめたものです。教科書の掲載順は、教科書目録の掲載順に整理したものになります。

また、表の右端にあります「新継連の別」の欄の記号は、新たに採択したいものを「新」、前年度採択したものを再度継続して採択したいものを「継」、前年までに購入したものをそのまま使用する場合を「連」で表しております。

菊里高校の資料で説明させていただきます。資料 4 ページをご覧ください。一番上の段の国語総合は、「1 年 継」となっておりますので、前年度採択した教科書と同じ教科書の採択を希望していることを表しております。それに対して、上から 3 段目の現代文 B は「3 年連」ですので、第 2 学年の時に購入した教科書を、第 3 学年も連続して使用することを表しています。また、7 ページ一番下でございます、中央高校夜間定時制の古典 A につきましては、「4 年 新」となっております。同校につきましては、昨年度同科目にて同じ出版社の同様の教科用図書を採択していたのですが、出版社が改訂版を出版したため、書名に「改訂版」が加わり、扱い上は別の書籍、という取扱いになっておりますので「新」となっております。当然、内容を検討の上、採択希望図書の出版社・書名を変更する場合も「新」となります。このように、同じ「新」にも 2 種類の場合がありますことを申し添えさせていただきます。

続きまして、資料 1-3 に関わって、説明資料の 8 ページから 12 ページをご覧ください。

抜粋資料として、菊里高校のものを掲載してございます。

こちらは、各校より提出された採択希望教科用図書一覧表を学校順に整理し、学年ごとに並べたものでございます。

最後に、今年度は、教科書展示会が鶴舞中央図書館で行われましたが、そちらの方で「市民の声」として5件いただいております。全ての意見につきましては「市民の声」のファイルに掲載してございます。

以上、資料1-1から資料1-3、及び「市民の声」に関しましてご説明をさせていただきました。これらすべての資料を閉じたものが青ファイルとして用意させていただいております。

これらの資料をもとに、ご審議をよろしくお願いいたします。

(杉崎教育長)

説明が終わりましたので、高等学校用教科用図書についてご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(野田委員)

ひとつ前の特別支援もそうでしたけれども、児童生徒の特性に応じてとありますし、本市の市立高等学校14校ございますけれども、それぞれ課程だとか学科の特性、それから生徒の実態も違ってきますので、専門家がされた教科書研究報告書を基に、各学校の生徒の実態に照らして、各学校で慎重に選ばれているということで、こういう形で選ばれたものを採択すべきかなと思っております。以上です。

(杉崎教育長)

他よろしいですか。青ファイルの方の資料1-3というところに全学校の希望図書一覧が載っています。

では、他にご意見もないようです。それでは、高等学校用教科用図書については、それぞれの学校の特性や生徒の実態に即したものを調査研究していただいております、資料1-3に各校の採択希望の一覧がまとめられております。この一覧にある通り、平成31年度使用教科用図書として採択を決定してよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(杉崎教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

次に、「特別の教科 道徳」以外の小学校用教科用図書の採択を行います。

まず、野田委員におかれましては、本年度検定を受ける小学校理科、生活科の教科書作成に関わっておられることから、ご退席いただきます。この後、中学校用教科用図書「特別の教科 道徳」の採択審議にはお戻りいただきますようお願いいたします。

【野田委員退席】

(杉崎教育長)

では、まずはこれまでの経過について事務局の説明を求めます。

(藤本指導室長)

まずピンク色のファイルの表紙裏をご覧ください。「平成 31 年度使用教科用図書採択基本方針」の 1 の (1) にありますように、「小学校用教科用図書は、昨年度採択した『特別の教科 道徳』以外の教科用図書を種目ごとに 1 種のみを採択する」となっております。

調査研究は、5 月 23 日から、「教科用図書調査専門委員会」により、各教科ごとに専門的な立場で行いました。それぞれの報告が 6 月中に提出されております。

さらに、6 月 8 日から 7 月 2 日まで、鶴舞中央図書館、西図書館、中川図書館、南図書館、天白図書館、港図書館、名古屋市教育センターにて「教科書展示会」を開催し、市民の方にもご覧いただきました。「特別の教科 道徳」以外の小学校用教科用図書に関することについては、特にご意見はございませんでした。

みなさまのお手元には、「教科用図書調査専門委員会報告書」（調査研究 観点 着眼点を含む）の綴りを置かせていただきました。委員のみなさまには、必要に応じてご覧いただきまして、審議の参考にしていただきたいと思います。

ではこの後、補足の説明を担当よりさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

(杉崎教育長)

それでは、「特別の教科 道徳」以外の小学校用教科用図書について続けて説明をお願いいたします。

(藤好指導主事)

本年度は、「特別の教科 道徳」以外の小学校用教科用図書については 4 年に一度の採択替えの年にあたります。しかし、昨年度新たに検定を受けた小学校教科用図書は 1 冊もありませんでした。こうした状況の中、本年度の小学校教科用図書調査専門委員会では、国語、書写、社会、地図、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、保健の 11 種目につきまして、平成 27 年度使用教科用図書調査専門委員会が行った調査研究報告書を基に調査研究を行いました。事前にお渡しをして、ご覧いただいておりますが、その報告書が紫色のファイルになります。なお、全ての教科において、平成 27 年度使用教科用図書専門委員会

の報告書と変更がなかったことを申し添えさせていただきます。また、市民の声につきましては、「特別の教科 道徳」以外の小学校用教科用図書については特に御意見はございませんでした。

以上で説明を終わります。よろしくご審議お願いいたします。

(杉崎教育長)

説明が終わりましたので、「特別の教科 道徳」以外の小学校用教科用図書に関する審議に入ります。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(梶田委員)

今、事務局の説明で、調査専門委員会からは特別な意見はなかったという風にお聞きしたんですが、先生方からはいかがなんでしょうか。

(藤本指導室長)

現場の方も、この間使用してまいりましたが、この教科書において特に問題はないということで、特別な声は聞いてございません。よろしくお願いいたします。

(杉崎教育長)

現場からも、特に問題ないということでございます。他いかがでしょうか。

他にご意見もないようです。それでは、「特別の教科 道徳」以外の平成 31 年度使用小学校用教科用図書については、新たに検定を受けたものがなく、学校での使用においてこれまで特に問題もないようですので、今年度使用している発行者のものを引き続き採択するということがいかがでしょうか。

(各委員)

異議なし

(杉崎教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。それでは、野田委員は席へ戻っていただきます。

【野田委員入室、着席】

(杉崎教育長)

最後に、中学校教科用図書「特別の教科 道徳」の採択を行います。

まず、これまでの経過について事務局の説明を求めます。

(藤本指導室長)

まずピンク色のファイルの表紙裏をご覧ください。「平成 31 年度使用教科用図書採択基本方針」の 1 の (2) にありますように、「中学校用教科用図書は、新たに『特別の教科 道徳』の教科用図書を 1 種類採択する」となっております。

調査研究については、5 月 16 日から全中学校に設置された「教科用図書調査研究協議会」で行うとともに、5 月 25 日からは「教科用図書調査専門委員会」により、教科の専門的な立場で行いました。それぞれ報告が 6 月中に提出されております。

6 月 4 日には教育委員のみなさまのご要望により、意見聴取会を開催しました。中学校「特別の教科 道徳」についての理解を深め、中学校において教科書の果たす役割等について、学識経験者の方より意見を聴取しました。

さらに、6 月 8 日から 7 月 2 日まで、鶴舞中央図書館、西図書館、中川図書館、南図書館、天白図書館、港図書館、名古屋市教育センターにおいて「教科書展示会」を開催し、市民の方にもご覧いただき、中学校用教科用図書「特別の教科 道徳」に関することについては、464 通のご意見をいただいたところでございます。

これらの資料を取りまとめ、みなさまのお手元に、「教科用図書調査専門委員会報告書」の綴り、「各学校における教科用図書調査研究報告書の観点別の傾向をまとめたもの」の綴り、「市民の声」の綴り、「特別の教科 道徳」の「中学校用教科書見本本」、「教科書目録」を置かせていただくとともに、教育長の机上には、「平成 31 年度使用中学校教科書編修趣意書」の綴り、愛知県選定審議会が作成した「選定資料」の綴り、「名古屋市立小中学校指導方針」を置かせていただきました。委員のみなさまには、必要に応じてご覧いただきまして、審議の参考にしていただきたいと思います。

(杉崎教育長)

では、採択の進め方についてですが、事務局からそれぞれ説明を聴取した後、質疑や意見交換等を行い、採択という流れで行います。委員のみなさんの意見の一致をもって決定、または、状況に応じて無記名投票によることとしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(各委員)

異議なし

(杉崎教育長)

それでは、中学校用教科用図書「特別の教科 道徳」について説明をお願いします。

(梶田指導主事)

道徳の教科書は、8 者から発行されています。まず、全中学校での研究結果について、報

告いたします。緑色横長のファイル「各学校における教科用図書調査研究報告書の観点別の傾向について」の裏表紙をご覧ください。

各学校においては、その報告書にあります観点、着眼点をもとに、各観点につき、特に優れているものに◎を1個、良いものに○を1個以上付けたものを提出していただきました。綴じてあるものが集約した結果となりますのでご覧ください。

次に、調査専門委員会による調査結果について、特筆すべきものをご報告いたします。緑色のファイル「中学校教科用図書調査専門委員会報告書」をご覧ください。こちらの報告書の観点については、各者1年生の教科書を使って説明します。

はじめに観点1についてご説明します。「学習指導要領との関連」については、道徳が教科化され、発達段階を考慮してよりよく生きるための基礎となる道徳性を養うために効果的に編集されているかという観点で検討しました。

東京書籍の173ページをご覧ください。道徳の授業でも、小中の連携を図る工夫がされており、ここでは、小学校低学年の道徳で定番の「橋の上のおおかみ」が掲載されています。小学校の時に考えたことがある教材をあえて取り上げて、考えさせることで、自分の気持ちの変化や成長などに気づかせるように工夫されています。また、3年生の教科書では、高等学校との連携をはかれるように、様々な分野で活躍する人を多く教材として紹介しています。

続きまして、光村図書の2ページをご覧ください。

シーズン1「自ら考えて」、シーズン2「仲間とよりよい生活を送るために」、シーズン3「広い視野で」、シーズン4「共に学び合いながら」というように、1年間を4期に分けています。シーズン1の最初のユニットのテーマは「中学校に入学した自覚をもつ」となっており、「自律」「節度」「家族愛」の3つの内容項目間の関連を意識した教材で構成されています。1時間の学びが単独ではなく、有機的に結びつくように配慮されています。

また、11ページをご覧ください。教材ごとに「学びのテーマ」というてびきが設定されています。「考える観点」が発問形式で掲載されていることで、「学びのテーマ」で示された内容項目が押さえられるように工夫されています。

次に観点2についてご説明します。「本市教育振興基本計画との関連」については、「郷土愛」や「学び成長し続ける力」を育むという点で、どんな工夫がされているかという観点で検討しました。

教育出版の184ページをご覧ください。先人の生き方や伝統文化を発展させてきた人たちの思いに触れた教材が扱われています。中でも『『夢』をつなぐ』では、名古屋城本丸御殿の復元にかけた人たちの思いや取り組みが取り上げられています。本市の生徒にとって関心の高まりや伝統文化を見直すきっかけとなることが期待される内容が取り扱われることで、郷土を大切にしようとする気持ちを高められるように工夫されています。

続きまして、光村図書の135ページをご覧ください。「つなげよう」では、自然環境に関する小学校での学びを振り返り、考えさせることで、小学校から中学校へ学びが連続する

ようになっています。また、1年生の内容が、2年生、3年生へと続いており、3年間の道徳の学びが、生涯に渡って大切にされるように工夫されています。

次に、観点3の(1)「内容の選択」の観点では、各者ともに、A～Dの視点についてはバランスよく教材が取り上げられていますので、生命の尊厳、伝統や文化、スポーツなどの現代的な課題を題材とした内容が適切に選択されているかという観点で検討しました。

東京書籍の24・25ページをご覧ください。いじめ問題対応ユニットとして、いじめ問題について多時間扱いでじっくりと考えさせることができるように工夫されています。まず、1時間目にいじめ問題をより身近な問題としてとらえることができるように、普段教室で起こりそうな様子を場面絵で提示し、いじめとは何かを子どもに考えさせるようになっています。次に、27ページ、2時間目では、読み物教材を通していじめの4層構造、いじめられる人・いじめられる人・観衆・傍観者、について考えさせています。最後、30ページ、3時間目)では、いじめをなくすために自分たちに何ができるかを、漫画教材を通してわかりやすく考えさせるように工夫されています。

続きまして、学研教育みらいの138ページをご覧ください。スポーツで活躍した人たちや、スポーツに関わった人たちの思いについて取り上げており、生き方のモデルを学ぶことができます。ご覧いただいている教材「イチローの軌跡」では、自分の夢を実現するために、努力を惜しまず様々な苦難を乗り越えることのすばらしさについて感じ取ることができます。さらに、142ページ「認められたクラブ」という職人の思いが描かれた教材を連続させ、夢を実現する人、その夢を支える人など、それぞれの生き方について、より深く考えることができるように工夫されています。

次に、観点3の(2)「内容の程度」については、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられる内容か、生徒がより深く考えられる内容かという観点で検討しました。

光村図書の64ページをご覧ください。コラム「いじめが生まれるとき」を設け、いじめ問題を取り上げています。60ページ前の教材「魚の涙」で、学んだことをもとにいじめについてさらに深く考えさせ、多様な人々の存在を尊重して生きようとする心を育てられるよう配慮されています。また、220ページの「いじめを許さないために」のまとまりをご覧ください。この他「自主、自律、自由と責任」「友情、信頼」「公正、公平、社会正義」というように様々な内容項目からいじめ問題の解決に結び付く教材を数多く扱っています。

日本文教出版の28ページからをご覧ください。いじめ防止を扱う教材と関連したコラム・体験活動が連続して配置されています。はじめに、いじめについて生徒に投げ掛け、次に、30ページで著名人のいじめを受けた経験の教材でより関心を高め、34ページのいじめの背景と心の状況を表したコラム「プラットフォーム」でいじめの構造を理解し、最後40ページに、ロールプレイなどの体験活動を通して、実践につなげられるように工夫されています。このことで、いじめ問題について多面的・多角的に考え、生徒が向き合えるようにしています。

日本教科書の176ページをご覧ください。人間尊重の精神の根底にある、生命を尊ぶ態

度を他教科等との関連から扱っています。ここでは理科との関連から生命尊重について学びを深められるよう工夫されています。次に、観点3の(3)「内容の構成」については、特に言語活動や問題解決的な学習・体験的な学習等の多様な学習に対応できる内容に編集されているかという観点で検討しました。

東京書籍の47ページをご覧ください。ここでは、前ページの教材「山に来る資格がない」の主人公がどのような行動をとればよかったかを、役割演技を通して自分事として考えられるように「ACTION!」が設けられています。このように、体験的な活動を通して、自分事としてより深く考えられる教材が、どの学年も2教材ずつ取り上げられており、多様な学習方法で考えさせられるようになっていきます。また、巻末には、切り取って授業で使えるホワイトボードや心情円が付録として付いており、生徒が主体的に考えたり、話し合いを活発にさせたりすることができるように工夫されています。

学校図書97ページをご覧ください。すべての教材において、手引き「学びに向かうために」が設けられています。「考えよう」「意見交換」「見つめよう」の活動を軸に発問が工夫され、生徒自身が課題を発見し、見方や考え方を広げたり深めたりしながら、自己を見つめられるように工夫されています。また、103ページの「心の扉」のように、教材を通して考えた道徳的価値を深めたり、自己を見つめ直したりできるコーナーがどの学年も設けられています。

教育出版の77ページをご覧ください。「やってみよう」では、役割演技を取り入れたり、日々の体験を想起して話し合ったりすることを通して、「正直であること」や「責任ある行動」等、道徳的価値の良さについて理解を深め、日常生活に結び付けるような工夫が見られます。

光村図書80ページをご覧ください。教材の最後には「学びのテーマ」「考える観点」「見方を変えて」「つなげよう」「私の気づき」の5つの要素で構成されている「てびき」を設けています。まず、「学びのテーマ」で本時で扱う教材のねらいを確認し、「考える観点」「見方を変えて」「つなげよう」では、ねらいに迫る発問を示して考えを深めることができるよう工夫されています。「私の気づき」では、学んだことを書いてまとめる言語活動がしやすいよう工夫されています。

次に、観点4「表記・表現及び使用上の便宜等」の観点では、8者とも、適切な挿し絵や写真等が使われていて、教材に対し、生徒の関心が高まる内容となっております。そこで、その中でも、特に効果的な活用がされている点に着目をしました。

教育出版の158ページをご覧ください。インパクトのある写真が大きく使われており、生徒が教材の内容を捉えやすくなるよう配慮されています。特に、ご覧いただいている「オーロラの向こうに」では、見開きでオーロラの写真に掲載することで生徒の心を揺さぶり、一人ひとりの感性に訴えるように工夫されています。

学研教育みらいの教科書をご覧ください。8者で唯一A4版の大きさである利点を活かし、写真やイラストが大きく掲載されています。例えば、134ページ以降の日本の伝統文化

に関する教材では、数多くの写真や資料等から、国内の伝統文化が世界に広がっていることをより関心を高めながら、深く学ぶことができるように配慮されています。

次に、観点5「印刷・造本等」の観点では、文字の大きさやユニバーサルデザイン等に関しては、8者のいずれについても配慮されていました。そこで、別冊として道徳ノートをつけている2者について、その取扱いしやすいかという点について着目しました。

日本文教出版の教科書をご覧ください。別冊「道徳ノート」が巻末に収まっている状態でも、他の教科書と同じように違和感なく取り扱うことができるように工夫されています。

廣済堂あかつきの教科書をご覧ください。こちらの教科書にも、別冊「道徳ノート」が巻末に収まりやすいよう工夫されています。

1枚目の報告書の説明は以上です。

続きまして、道徳科で特に調査を要する事項について報告いたします。緑のファイル、道徳科2枚目の報告書をご覧ください。こちらの報告書については、3年生の教科書を使って説明します。

まず、事項1「内容項目の扱い」では、8者とも、全ての内容項目を網羅した内容となっていて、生徒の発達段階に合ったものが扱われています。そこで、内容項目の配列という点で比較しました。

教育出版の175ページをご覧ください。ご覧頂いている内容項目の一覧表の水色の部分が、集団や社会との関わりの視点です。1年生では12教材、3年生になると16教材と増えています。このように、発達段階に応じて、個から社会へと視野を広げていけるように内容項目の構成・配列がされています。

次に、事項2「『考え、議論する道徳』への工夫」では、主体的・対話的で深い学びに関する内容について比較しました。

学研教育みらいの160ページをご覧ください。「スポーツの世界で共に輝く」という観点で、複数の教材を関連させ学べるように工夫されています。生徒の興味の高いスポーツを取り上げ、パラリンピック選手、選手を支えるスタッフや義足職人など、様々な立場で関わっている人の生き方を考えることができる教材を連続して配置しています。このことで、多面的・多角的に考えられるようになっており、自分の生き方について考えを深め、議論できるようになっています。

次に、事項3「『いじめ問題・生命の尊さ・情報モラル』の扱い」では、8者とも重点項目として扱っています。そこで、いじめ問題をより深く考えさせる内容の工夫で比較をしました。

光村図書の52ページをご覧ください。光村の教科書では、様々な内容項目からいじめ問題の解決に結び付く教材を扱っています。教材「アイツとオレ」は「相互理解、寛容」の内容項目からいじめ問題に迫ることで、多面的・多角的に考えさせることができるようになっています。また、58ページのコラム「自分たちにできること」と合わせて考えさせることで、いじめ問題について、深く考えられるようになっています。

次に、事項4「道徳的価値を身近に感じることができる題材の扱い」では、掲載されている教材について、比較しました。

東京書籍の118ページをご覧ください。ここでは、教材「伝えたいことがある」で出てくるビキニ事件が起きた時代背景や経緯、内容、第五福竜丸についての説明がコラムとして載せられています。生徒が教材の内容をより深く理解することで、議論に深まりがでるように工夫されています。

以上で、説明を終わります。

(杉崎教育長)

説明が終わりましたので、中学校用教科用図書「特別の教科 道徳」に関する審議に入ります。この間、6月には意見聴取会もしたりとか、事前に読んでいただいたりもしていますので、いろいろご意見があると思いますのでよろしくお願いします。

(野田委員)

8者ございますけれども、調査専門委員会報告書にはですね、それぞれ8者の良さを取り上げていただいて、それぞれ8者ともですね、いろいろな工夫が取られているんだなというのを実感しました。

特に、その工夫の中で、太四角が特に有効だという風に考えていけば、東京書籍、それから教育出版、それから光村図書がその太四角が多いので、この3者が優れているのかなと感覚を持ちました。

さらにですね、実は先日、教育振興基本計画の策定に関して、児童生徒の意見を聞くということで、教育委員でいくつかの学校を手分けして回って、子どもたちに意見を聞きました。その中で、私も全部行けたわけではないのですが、ある中学校で、教育長から学校生活について聞かせてくださいという中で、冒頭に出てきましたのが、通学かばんが重い。大きなかばんだが、主要教科の教科書だけでいっぱいになるというような、今新聞紙上でも、それから議会でも話題になったと伺っていますけれども、教科書が重くて子ども達に負担をかけているというような状況があります。ちょうどこういう状況ですし、ここでの採択ですので、子どもたちの声として考えなければいけないという風に私は考えます。

先日、小栗委員の方からですね、8者の重さを調べてほしいという要望がありまして、手元に資料をいただきました。そうしますと、8者の中で、一番軽いのが教育出版の3冊あわせて1,020g、それから日本教科書の1,020gが一番軽い。それから、一番重いのが廣済堂あかつきの1,500g、それから学校図書の1,570gということで、版が大きくなれば重くなってしまいますし、それから子どもたちのかばんの中に負担がかかるということで、やっぱりこの時期ですので、中身はそれぞれ良さがあるわけですので、こういった子どもの要望を踏まえながら、1,020gでありますし、それから調査専門委員会の方でも太四角が多い

教育出版が適切ではないかなとまず感じました。

それから、私も委員長いものですから、教科書採択に4、5回関わってきておるんですけども、特に私の立場として、私は本市で教員をやってきた、教科書を使って授業をやってきた人間ですので、実際に最前線で指導に使っていただく先生方が一番使いやすい教科書をずっと、教科を問わずに主張してきました。

今回もそういったことで見ますと、合計が出ておったんですけども、二重丸というのが重みがありまして、各学校で7つの項目につき1つしか付けられない。だから学校が大きくても小さくても1つということになります。それを集約したものが、一番多かったのが教育出版で二重丸が227校から付いています。2位が光村図書で173。この間に50差があるんですけども、実は小学校の時には1位と2位の差が100票くらいだったと思います。それに比べると少ないように感じますけれども、学校数が、小学校は中学校の2.5倍ほどありますので、この50の差というのは小学校以上に差がついているという風に見ることができます。227を、7項目ですので7で割りますと、だいたい32校ずつ付けていただいておりますということで、3割近い学校が、各項目平均しますと教育出版に二重丸を付けているということで、ここは重視をしていきたいなという風に思っています。とりあえず以上です。またいろいろとありますけれど。

(梶田委員)

まずもって、市民の声もたくさんいただきまして、本当に市民の方々の道徳に関する注目度が非常に高いんだなと。464通でしたか。それと、その他にもはがきで何十通もいただいたという風に聞いております。

その中で多かったのが、日本教科書はやめてほしい、ということだったんですが、私個人的には、一番私の好きな題材がたくさん載っておるのが日本教科書で、日本教科書いいなと。特に、真珠湾での安倍首相の「和解の力」でしたかね。そういうのがぜひ、我が国の首相が世界に発信した言葉なので、中学生にはぜひ議論してそれぞれの考えがあっというんじゃないかなという風に思いました。

ただですね、これは私の読み物を選ぶ場ではなくて、教科書を選ばなきゃいけないということなので、やはり野田委員と同じように、学校の先生方が使いやすい、それから専門委員会が特筆すべき点が多いというところを、特に3者に注目をして、時間をかけて拝見させていただきました。

本当に3者ともですね、東京書籍も教育出版も光村図書も、読めば読むほどどれも遜色なく素晴らしいなと、迷いに迷ったんですが、どうしても1者に絞らなければいけないということで、特に同じ題材を扱っておるところに注目をして見てみました。

例えばですね、「裏庭のでできごと」みたいなところだと、原文を光村図書の方は少し最後のところで変えてありまして、それに対する設問が多項目、5項目ぐらい。特に、「見方を変えて」というところが学びのテーマの方にあるんですが、これが他の教科書にはない、

ちょっと違った角度で一度考えてみましょうという投げかけがあって、ここがいいなど。本当にいろんな考え方を議論し、そして考えさせるのではないのかなと。

ただ、先ほど野田委員がおっしゃいました重さで言うと、光村図書かなり重いなどというのと、もう1点、新しさを感じないといいますか、見やすさでは他の教科書のほうがいいのかという風には感じております。以上です。

(小嶋委員)

私はやはり現場の先生方のご意見というのはとても大きいと思います。そういった点で、現場の先生の評価が高かった3者の中から選ぶべきではないかという風には思います。この3者というのはこの二重丸の数が突出していると思い、この3者を重点的に見てみました。

先生の評価というのはその3つということで、まず置いておいて、その3つを横並びに見たときに、私は東京書籍が、生徒さんの、子どもの目を見た場合にとっても優れていると思いました。それはなぜかというと、オリエンテーションが最初にある。しかもこれがぱっと見られるわけではなくて、扉を開けるととてもわかりやすい形で、この道徳の授業をこんな風に進めたらどうですか、という提案が子どもにとってもわかりやすく親しみやすい形で提案されている。なので、子どもたちはこの教科書を見て、「道徳の時間ってこんな風に進めていけばいいのか」というイメージをあらかじめ付けることができる。またこの紙面もとても親しみやすく、空いた時間にぱらぱらと読み物としても読めるような形で、しかもその中身というのが読み物あり漫画あり、イメージがわくような図で示したものがあり、というもので、とても親しみやすく読める。

さらに、活動内容もですね、読み物の大半は、最後のところに「考えてみよう」ということで項目立てがいくつかあって、トピックになるものがさりげなく挙げてあるというので、その時間によって先生と生徒さんの、その場その場で臨機応変にいろいろな形のディスカッションの方法が組めると思います。また、いくつかはここにある「ACTION!」という形で、ロールプレイも入れてある。何よりやはり生徒が主体的にこの時間を楽しめるかどうかということが道徳の時間とても大切だと思うので、そういう観点でみると、私はこの東京書籍が一番工夫されているという風に思いました。

(小栗委員)

どれかを選択しなければいけないということなので、どれかを最終的には選択、という風には思っているんですけども、小学校の時もそうだったんですけどすごく考えさせられました。どれがいいというのは、だいたいみなさん検定通っているの、悪いということはないという風に思いました。

その中でちょっといろいろ考えたこともあわせてお話をしたいと思うんですけども、先ほど梶田委員から、「裏庭のできごと」というのがほぼ共通のテーマになっていたというこ

と、それから私自身が感じたことは同様に「足袋の季節」とか「二通の手紙」とか、一部これは入ってないですけど「銀色のシャープペンシル」とかっていう題材が入っていました。何を考えさせられたかという、先ほど申し上げましたように小学校の道徳の授業を見て、今後中学がどうなっていくかということは別なんですけれども、あまりにも、言い方がちょっと不適切だったらお許しいただきたいんですけども、きれいごとで終わらせてしまうという臭い物には蓋をしろというようなところが、私はずっと日本の文化の中に、海外で生活をしたときにもあったりするようなことを感じました。

特に教材として、「足袋の季節」というのは、おばあさんにまんじゅうを売って50銭とか20銭とか、今実際キャッシュレスの時代にも関わらず、そういった何十円っていう小銭が題材になっていて、それもそれで、人間的な触れ合いというのはよくわかると思ったんですけど、そういう題材が今の時代として扱っていくということがまずいいのかなということも感じました。

一方で、私は企業人なのでそういう視点で読まさせていただいたのは「二通の手紙」。これもとても考えさせられたのは、コンプライアンスというのがビジネスの世界ではあるんですけども、入れちゃいけないお子さん、年齢制限があって保護者がいないといけないお子さんを定年間近の方が入れてしまった。でも結果、それによって子どもたちに時間に戻ってきてくれと言ったんですけども、今まで親御さんが連れていけなくて、楽しすぎて時間を忘れて遊んでしまって結局検索になってしまった。結果、その定年間近でとても仕事で評価の高い人が停職処分になって、結局辞表を出して辞めてしまう。これについて議論をしなきゃいけないということなんです、ルールはルールだっていう世の中のコンプライアンスを絶対に守らないといけないと。例えば、教員の中でもこのルールを間違えたから謝罪会見をしなきゃいけないと。だけどそこに人間の心情が許されるのかどうかというところ、とてもこれは子どもたちが議論すると何が正しいんだと。親学で親も入った時にじゃあ親がどういう風に教育をしていくのかなといったときに、こういった教材が入っているというのはとても興味がありまして。授業の中でどうやって教えていくと本当にいい子どもが育つんだろうなということをととても考えさせられました。教材としてはそれぞれ価値観があるとは思いますが、こういったことをうまく先生方がご指導いただければいいなということで深く考えさせられました。

そこでいろいろ議論がありましたが、野田委員がおっしゃったように、教える立場、今先生の時間も限られている。それから子どもたちにもあまり負担をかけないということできくと、たしかに教育出版や東京書籍というのは最後の今言った題材についての質問も比較的簡潔になっていたと思う。簡潔というのは、2つとか3つくらいの質問。一方、光村図書につきましては、4つとか、多いときにはもう少しあったという風に感じました。どういった子どもを育てたいかという観点でいくと、私は教師ではないので、できるだけ深く深く考えていくという教育が、今後例えば高校になって大学になって、それを中学校のときにしっかりと考えるということが必要ではないかなと思った時に、光村図書の教科書という

のはかなり奥が深い質問があったという風に思います。教える側としては、確かに時間のこともあって、できるだけ早くわかりやすく答えを出していければいいと思うんですけど、そういう点ではもう一段階、難しいと言えば確かに難しいかもしれないけれども、一歩奥に入っていったのが光村図書かなといった印象を受けました。

ただ、小嶋委員がおっしゃった東京書籍とか、それから教育出版は、光村図書に比べて写真も新しいし、それから梶田委員がおっしゃったようにちょっと正直言って光村図書は今どきにしては古いなという印象を受けました。

あと重さの話と、それからサイズの話でいくと、教育出版と光村図書は同じサイズだったと思いますが、東京書籍はちょっとサイズが大きいと。逆に特別の教科である道徳なので、見るとこの幅の広さによってとても読みやすいなという印象も受けていますし、正直言って決め難いなどは思ったんですけども、そんな印象を持たせていただきました。

(野田委員)

まず今、梶田委員と小栗委員の言われた、最後のいくつかの投げかけの件ですけど、この間、先ほど言いましたように、小学校高学年の、中学校につながるような道徳の授業を見せていただいたんですけども、このときにやっぱり、発問といいますか、先生からの投げかけは、3つでした。それがいっぱいいっぱいなんですね。やっぱりいくら問いが深くても、深める時間がないというのが私は問題かなという風に思います。

それから別の観点で、我々4月に4つの観点で選ぼうという風に決めまして、その1つが有識者の方を呼んで意見聴取をしようということで、6月のはじめに上越教育大学の先生を呼びまして、専門家を呼びましていろいろとご意見を伺いました。その中で、いろんなことを学んだわけですけども、例えば言われていたのはですね、「個人的にはノートは持つべきだと考える。何をどう学んだのか、理解したこと、深まった考えを知ることは評価につながる。しかし別冊は本来のノートではないということで、自分でノートを作っていくということですね。無地のノートでもなんのノートでもいいですけども、それを持って、そこにその時間で心に留まったことを書き溜めていく。それをあるときに見返していくというのが本当のノートだ」というような、そんな主張をされました。だからできるだけ教科書に書くのではなくて、そういったノートを準備していくことが大事かなと思いました。

あとですね、多様な教材をやっぱり組み合わせながら授業を進めるのが大事だと。そうになるとやっぱりその多様な教材を読み込む時間がありますので、できるだけ教科書教材は簡単なもの、その教材と比べながらまた考えを深めていく。そうすると、あまり設問が多いというのは考えられないかなという風に思います。

それから、私が一番大事だなと思ったのはですね、「ねらい」がはっきりしていない、ということを言われました。だから「ねらい」をはっきりさせながら向かっていく、それはですね、本市の教育方針であります「なかまなビジョン」にもですね、冒頭に「めあてを

つかむ」という風を書いてあるんです。そうしますと、教科書をぱっと開くとですね、その題材のところに、なにかしましうなにかを考えましよう、ということが書いてある。そこから導入ができるということで、それは考えなければいけないことだろうなと思いました。

そんなようにいろいろと上越教育大学の教授から学んだことがございまして、その観点で見させていただいているというのがひとつございます。

あとですね、小中の連携ということで、先ほどですね、東京書籍が「橋の上のおおかみ」という小学校でも扱った教材を、ちょっと入れている。これは安心感がありますよね。それから光村図書は、「つなげよう」ということで、環境教育のところで小学校での学びをつなげている。それから例えば教育出版はですね、実は、1年生の教科書の前半は文字が大きいんです。ポイントを大きくして、小学校からスムーズに中学校への学びに入るように、安心感を持って始められるようにということで、他にはない特色ということで、そんな配慮をされているなと思いました。

あともうひとつですね、心情円というのがありましたね、東京書籍に。もうひとつどこかで心情円使っているところがありましたけれども、あれはけっこうおもしろくて、私も別の教科の授業で見たことがあるんですけども、この動きでですね、自分がどの立場になったのかというのが一目瞭然でわかるんですよ。それを見ながら、先生が指名したり、友達同士で意見を交換させたりということで、魅力となりますし、反面でですね、その分重くなりますし、微妙ですけども、あれはおもしろい付録だなとは思いました。

(梶田委員)

今のところ、ちょっとページ数を教えてもらえませんか。

(杉崎教育長)

心情円は、教科書の一番後ろに付録で付いているものです。

(梶田委員)

これのことですね。わかりました。

(小栗委員)

先ほどいろいろ、みなさんの評価とかでいくつか書籍がある意味絞られてきている中で、ちょっとその中から外れたことを申し上げることになるかもしれない。今回いろいろ勉強させていただいた中で、先ほどの小学校の道徳を見学させていただいたりとか、今後中学校の道徳をどういう風に導いていくかという視点を考えながら読んでいた時にとっても参考になったものがあつたのでちょっとここでお話をしたいと思うんですけども。

この学研の92ページから、ブラックジャックの話が出ていまして、これは比較的年齢の

高い方というのは知っている漫画かもしれませんが、世の中とか人生というのはですね、本当になにが起こるのかわからないという辛さとか、それから道徳の中でひとつ考えていかなければいけないことのテーマに、生と死というのが私はとても重要な問題のひとつではないかなというように考えています。

その中でこの学研のブラックジャックがとてもおもしろかったというのは、ご存知の方いらっしゃるように、ブラックジャックというのは金をもらって人を助ける。ところがここに出てくるお母さんというのは余命いくばくもなくてお子さんがいらっしゃる、お子さんたちは一生懸命お金を貯めて 100 万円払ってブラックジャックに治してくれと頼む。ところがお母さんは自分が余命いくばくもないものだから、安楽死をする悪い医者の方に 100 万円払って殺してくれと。

何がそこから私は感じたのかなということが、子どものこの多感な時期にそういったことも勉強しなきゃいけないな、勉強した方がいいかなと思ったのが、結局ブラックジャックという医師が、余命いくばくもないお母さんの治療をして治すわけです。そのお母さんが、迷惑かけちゃいけない、もう死ぬからということで、悪い医者の方に安楽死を頼み、もう安楽死をすすめているところにブラックジャックが入ってきて、何やってるんだということで助けて、結局お子さんたちに、こうやって手術したから安心してねと言ったところまではよかった。ところがしばらくして、ある人が走ってきてブラックジャックに、その患者さん亡くなったぞと。実は子どもも一緒に亡くなったというのは、これがある意味、きれいごとでは終わらせないなど。子どもたちにも必要だなと思うのは、結局治ったんですけど、その移動する車に親子 3 人が乗って、それがトラックと一緒にぶつかって、せっかく治って生き延びてという親子が亡くなってしまったという、とてもある意味辛い、悲しいできごとというのがこのブラックジャックのなかに出ていました。

なぜこれを特に私が取り上げさせていただいたかというのは、読み物として漫画は非常に読みやすい。それから、道徳という授業を進めていく中で、あまりきれいごとだけでも、世の中いいのかないかなというところが、小学校の道徳の中で、靴を隠してそれを言うか言わないかというところのお話があったんですけども。あまりにもこれまで日本の文化というのは冒頭申し上げましたようにきれいごとで終わらせてしまいたいというところがあるかもしれないんですけども、必ずしもこういった教材がいいというわけではないかもしれませんが、そういったところを今後の中学校の道徳のなかで、人生というのは思いもかけないようなことがあって、もう治っていいと思ったんだけど結局、ネガティブなことを言って申し訳ないが、悲惨なことになって亡くなってしまった。だけど、子どもたちに何が正しかったんだというような、悲惨なことについても助ける医者、助けない医者、さらにそれが終わっても人生というのは何が起きるかわからないんだよというようなことも含めて、私はこれはとても参考になるなと思いましたので、ちょっとお話をさせていただきました。

(小嶋委員)

市民の声の中で、巻末に子どもたち自身がこの教材に対して評価を付ける項目があることに対して、これは内心の自由を奪うものであるというようなご指摘がありました。私はそれは違うと思うんですね。道徳は、教員が子どもを評価することはしないという風になっているんですが、例えば、教育出版の巻末に挙げられた評価の表というのは、「学習して新しい発見があったりためになったと感じたりした教材に自分なりに色を塗ってみましょう」といって3つ星がある中で、自分自身で付けてみると。これは自分自身の気づきを促すためのものであって、決して子どもの心を縛るものではないと思います。言ってみれば、「いいね」と思ったものにチェックしてねと、「いいね」の星を付けるということで、子ども自身が教材と向き合うために、自分自身の気づきを促すためにとても有効なツールであるという風に私は思っています。

(梶田委員)

野田委員にちょっと質問なんです。教師としての技術的なことはよくわからないのですが、先ほど、考えてみましょうという設問の中で、3つくらいかなという風におっしゃったと思うんですが、どうしても5つ設問があると、先生は5つ取り上げて授業を進めてしまうものなんでしょうか。それとも3つに絞ってとか2つに絞ってとか、そういう授業の進め方はしにくいものなんでしょうか。

(野田委員)

基本的に授業って導入と展開とまとめがあって、その中で山場をひとつずつやっぱり設けたいというのが、どの教科でも考えることなんですよね。そこに最初の発問があって、展開で深めるものがあるって、最後振り返ってみる、っていうのがだいたいの流れなんです。なので、やっぱり5つあると、どうしてもみんなが専門家ではないものですから、ここは手引きにあるからやらなきゃいけないよなど。例えば私なんか国語が苦手だったんですけども、国語の手引きはたくさんあるんですけども、やっぱりやっておかなきゃいかんよなんて思って、国語の手引きはいつこいつこ潰していったというか、表現が悪いですが、やりましたけれども、やっぱりちょっと薄くなってしまうなという気はありました。やっぱりやらざるを得ないなという感覚があります。

(杉崎教育長)

私もいいですか。6月4日、先生の方からいろいろとお話を聞いて、さっき野田委員が言われたことは私もそういう感じがしました。それと、小学校の授業の様子を見たりしたんですけど、やっぱり「特別の教科 道徳」ということで、教える、覚えさせる授業ではないと思って、子どもが考えて議論するっていう時間がどうしてもいるし、あんまり教科書に沿って、時間が限られていなければいいんですけども、あんまり難しい、深めなけ

ればいかんというような教科書だと、先生方が授業もやりにくいというのは当然あるんですけど、子どもたちが議論をして考えてなんぼだという道徳の授業だと思いますので、やっぱりその辺は、内面的に高めるような教科書であればいいかなと思っていて、その辺は、教育出版だと1年生の文字が少ないということで小中の接続をよく認識して、分量も減らしてということで、やっぱり成長に合わせてちょっとやってあるなという気がしました。光村図書はやっぱりその辺、国語の教科書の専門的な会社なのか、ちょっと難しいなと、一単元では重いなという感じがしました。

(小栗委員)

野田委員にちょっと質問なんですけど、先ほどの別冊のノートについてですが、先ほど有識者の方も自分のノートを持ってという風におっしゃったんですけども、あえて何か付いているところの意味合いというのがあると思うんですけども、良さは何かないでしょうか。これが付いていることで。

(野田委員)

例えば光村図書の手引きの学びのところにしても、それから教育出版や東京書籍の最後の3つ書いてあるところにしても、当然だと思うんですが、その項目がそのノートに合っている、ということですね。ただそのノートがあると、やっぱりそれを埋めなきゃならないという負担感があって、結局学校票は、小学校でもそうでしたけれどもあまり上がっていない。ある以上使わなければいけない。そうじゃなくて、上越教育大学の方も言われていたように、まっさらのノートなら、そこにっこいっこ書いていけばいいわけであって、そういう意味での良さはあるけれども、それはやっぱり埋めなきゃいけないという感覚というのはつらいところだろうなと思います。もちろん道徳だけやるわけではありせんので。

(杉崎教育長)

いいですか。

それでは、今までいろいろと意見をいただいたんですけども、どれかこの1冊というような感じではちょっとないかなというような気がします。

ですが、みなさんの意見ですね、現場の声ということとかいろいろと出ていましたので、そういう形で行くと、東京書籍と教育出版と光村図書がけっこう現場の点数、専門家の意見も3つが上位グループという形になっているような気がしますけれども、そのなかでもいろいろと委員のみなさまの意見が出てましたけれども、この中からどれか1つという感じではないので、最初に申し上げたように無記名投票ということでよろしいですか。

(各委員)

異議なし

(杉崎教育長)

ではその際に、この3者でやるということでもいいですか。いろいろな意見が出たので、3者でやると。

(各委員)

異議なし

(杉崎教育長)

わかりました。それでは東京書籍と教育出版と光村図書を候補として、この3つを無記名で投票するという事に決定したいと思います。

それでは投票の準備に入ります。投票の準備をお願いいたします。

【投票用紙配付】

(杉崎教育長)

それでは投票を行います。

配付をいたしました、この中から採択すべきと思う発行者名に○を付けていただき、投票してください。

結果ですけれども、今日は1人欠席で5人ですので、過半数以上ということで3票以上得票した場合は、その発行者の教科書を、割れたとき、2票、2票、1票などなった場合は、上位の2票取ったところで再投票ということで行きたいと思いますが、いかがでしょうか。

(各委員)

異議なし

(杉崎教育長)

それでは、そのようにしますので、投票用紙が行き渡ったと思いますので投票をお願いします。

【投票用紙記入】

(杉崎教育長)

よろしいですか。それでは、箱が空であることの確認をお願いいたします。

【各委員に箱の中を見せ、空であることを確認】

(杉崎教育長)

よろしいですか。では、投票用紙を二つ折りにして、梶田委員の方から入れていただけますか。

【投票】

(杉崎教育長)

ありがとうございました。
それではただちに開票いたします。お願いします。

【開票】

(杉崎教育長)

それでは投票の結果ですけれども、教育出版が3票、東京書籍が1票、光村図書が1票ということですので、過半数を得たということで、教育出版に決定ということにさせていただきます。よろしいですか。

(各委員)

異議なし

(杉崎教育長)

それでは、中学校の「特別の教科 道徳」は教育出版ということで決定をいたしました。傍聴の方も含めまして、ここにおられるみなさまに再度お願いをいたします。平成31年度使用教科用図書の採択に関しましては、県の指導を受け、採択結果は8月31日まで非公開としております。また、採択などに関わる会議録、資料等につきましても、同様の取り扱いとなりますので、その趣旨ご理解の上、本日知り得た内容につきましても、ご配慮いただきますよう、よろしく願いいたします。

それでは、これより日程第3へ移りますので、これ以降は非公開となります。傍聴の方、記者の方、退席をお願いいたします。

日程第3からは非公開とされたため、名古屋市教育委員会会議規則第12条の規定により、会議録は別途作成。

午前11時45分終了